

中学第3学年国語科学習指導案

1、単元名

「遠野物語」をリライトして民話のおもしろさを伝える

2、単元の目標

(1) 国語科としての目標

- 民話を伝える人々の生活や想いを受容する。
- 対象を意識して民話をリライトする。
- 読み聞かせて児童を楽しませ、自分たちも楽しめる。

(2) 汎用的スキル

- 民話の希少性と価値を踏まえて、読み聞かせる対象を意識したリライトを行える。(感性・表現・創造の力)

(3) 態度・価値

- 民話を語り伝えてきた人々の思いを受け入れ、自らもその繋がりの中に位置付くことを意識することができる。(他者に対する受容・共感・敬意)

3、生徒の実態

中学校第三学年は、義務教育修了年として小学校段階から積み上げてきた学習内容を確認し広げ深めていく。社会生活が意識される年齢である。生徒の実態としては、読書をするのが好きな生徒が多いが、国語への関心にはばらつきがある。しかし、知的好奇心が高く、話し合い等の活動への取り組みはまじめであり、熱心に行う。また、全体的に素直で幼い雰囲気を持ち、様々な活動に対しても楽しんで取り組むことができるものが多いし、丁寧に取り組むべき活動や作業に関しても、テキストや授業に対しても積極的な生徒が多い。少し難しい内容について、理解することが困難な生徒も、助けを得ることを厭わずに授業に取り組める。「遠野物語」という民話のリライトの対象を小学生として、読み聞かせを言語活動として設定することに、生徒の学習への主体的な取り組みが期待された。

4、単元について

①教科から見た特性

本単元は、小学校三年生が移動教室で行く先の民話ガイドブックを作成するための意欲付けとして位置づけた。また、「民話」のおもしろさを体感した上でさらなる工夫を行う方向への動機付けとして、読み聞かせを行うこととした。つまり、「言語文化に関する事項」としては「古典の世界に親しむこと」、「時間の経過による言葉の変化」に着目すること、「B 書くこと」における「目的や意図に応じた表現になっているか」を主としてリライトと小学生を対象とした読み聞かせという言語活動の場を設定したということである。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

本単元では、中学生としては、対象にあわせてリライトをすることで、民話の背景やその意味に深く思いを寄せることができる。それは、「リライト」が再構築であり、相手にわかるように語るためには自らの理解が深まる必要があるからである。リライトに当たっては、そのまま書き換えるだけではなく、書かれている状況や心情を加筆することで、さらに物語をきっちりとイメージすることができた。民話は口承文学であり、その希少性を確認した上で、現代まで文字に残して大切に伝えられてきていることを理解した上で、その内容の不思議さや、遠野地方を舞台として描かれた自然の神秘とあわせて、それらに親しんで暮らしている人々の生活や想いを受容させた上で、リライトさせたいと考えた。そのためには、民話の奥にある世界を想像していくことが大切であるということをも自覚させていった。また、物語が119話所収されており、児童対象であるという条件下においても選択の幅もあり、短い話が多いので、リライトにも都合がよい。内容や表現については、もともとが児童向けに作られたものではないので、対象者が小学生であるという相手意識をより強く持つことにつながったようである。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全6時間 本時6/6時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間)	・「異界を捉える言葉―遠野物語(抄)」を通読し、作者の思いを知る	○協働する力 ○感性・表現・創造の力	・民話が不思議な内容であり、方言で語られることの意味に着目させる。

	。		
第2次 (2時間)	・小3を対象として1話だけリライトする。 ・読み聞かせを行う。 ・振り返りの観点を検討する。	○伝える力 ○協働する力 ○批判的思考力 ○先を着通す力 ○感性・表現・創造の力	・対象を具体的に設定する ・振り返りの観点を生徒に考えさせるために、同じ話にする ・中学生同士で行うことで見通しを持たせる
第3次 (3時間)	・話を選びリライトする ・小3へ読み聞かせ ・リライトから読み聞かせまでの振り返り ・小学生へのメッセージカードの作成	○伝える力 ○協働する力 ○批判的思考力 ○先を着通す力 ○感性・表現・創造の力	・対象を意識した上で119話の中から選ばせる ・お店屋さん形式で楽しい雰囲気をつくる ・発表前後で小中の交流が自然に行われるように促す

6、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・民話を伝える人々の生活や思いを受容し、伝えられる。
- ・読み聞かせで児童を楽しませ、自分たちも楽しめる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される生徒の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 5分	○ 本時の活動の確認 ・班ごとに確認しよう ・小学生の緊張を解こう	◇本日の活動の流れを確認させる（協働する力・先を見通す力）
	リライトした読み聞かせで、民話のおもしろさを伝えよう。	
展開 ① 30分	○お店屋さん形式で読み聞かせを行う ・小学生がニックネームで呼んでくれるといいな。 ・ちゃんと聞いてくれるかな。 ・民話のおもしろさを伝えられるかな。 ・順番のわからない子は連れて来よう。 ・落ち着かない子がいたら、誰か側にいてあげよう。 ・小学生と距離が近くて緊張する。 ・声の大きさや速さは大丈夫かな。 ・初めに自己紹介をして盛り上げよう。 ・よい反応をしてくれてかわいいな。 ・小学生がつまらなそうにしているから、次の回はもう少し工夫しよう。 ・いっぱい感想を言ってくれてやりがいがあったな。 ・結構はっきり指摘されて驚いたな。	◇中学生はニックネームを書いて胸に貼る（協働する力） ◇グループは小中いずれも男女混合（協働する力） ◇お店屋さん形式にして、児童が順番に回っていくようにする（協働する力、先を見通す力） ◇中学生を囲むように児童を座らせる（協働する力、伝える力、感性・表現・創造の力） ◇読み聞かせの前後に児童との交流を持つ（協働する力、メタ認知力、批判的思考力） ◇発表後すぐにその場で振り返りをメモできる紙を渡しておく（問題解決力、メタ認知力、批判的思考力）
結末 15分	○学習の振り返りとメッセージカードの作成 ・あまり上手に語れなかったな。 ・小学生が喜んでくれて嬉しかった。 ・自分が小学生の時にこんな学習があったらよかった。 ・また小学生と学習したい。 ・自分が民話を伝える側なのがスゴイ。 ・カードも喜んでくれるといいな。	◇授業の内容と学習方法に分けて、個人・グループの順で振り返る。（協働する力、問題解決力、メタ認知力、批判的思考力） ◇この学習で得たものを出し合い共有する。（協働する力、メタ認知力） ◇メッセージカードを作り、小学生に届ける。（協働する力、伝える力、感性・表現・創造の力）

●記録写真 有，メッセージカード（小学生に届けたもの）